

歯学教育認証評価項目・評価基準・観点 (2016年度トライアル修正版)

平成28年2月27日

(章)	評価項目	基準		観点		観点
1	教育の理念及び目標	1-1	歯学教育における教育の理念及び目標が適切に設定され、かつ明確に示され、公表されていること。	1-1-1	大学・学部理念を踏まえ、かつ国民の求める歯科医師養成を行うという教育目標を設定し、これらを教職員及び学生に周知し、かつ社会に公表していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的の明確性と適切性 ・個性化と多様性の視点 ・コンピテンシー ・周知方法と公表方法 ・効果
				1-1-2	教育の理念及び目標の適切性について定期的に検証を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・点検、評価 (PDCA サイクル) ・検証、改善の事例
2	学生の受け入れ	2-1	学生の受け入れ方針 (アドミッションポリシー) が明確に設定され、それに従って適切に入学選抜を行っていること。	2-1-1	大学・学部理念、設置目的及び教育目標に即した学生の受け入れ方針 (アドミッションポリシー) を定めていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の受け入れ方針 (アドミッションポリシー)
				2-1-2	入学者の適性を的確かつ客観的に評価するための選抜方法及び選抜手続きを設定し、社会に公表していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集方法及び入学者選抜方法の適切性 ・多様な人材に修学の機会を与える視点
				2-1-3	学生の受け入れ方針 (アドミッションポリシー) ・選抜基準・選抜方法等の学生受け入れのあり方について、恒常的に検証する組織体制・システムを確立していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・点検、評価 (PDCA サイクル) ・検証、改善の事例
		2-2	入学者実数が入学定員数 (募集人員) と比較して適正な数となっていること。	2-2-1	優れた資質を持つ入学者選抜を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・志願倍率と実質競争倍率の乖離 ・学力の担保
				2-2-2	入学定員 (募集人員) に対する入学者数及び学生収容人員に対する在籍学生数を適切に管理していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数に対する教員数の比率 ・入学定員 (募集人員) 充足率 ・入学定員 (募集人員) に対する在籍学生数の比率

3	歯学教育課程の内容・方法・環境	3-1	【教育課程の編成・実施方針】 教育研究上の目的に基づいて、教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）が明示され、公表されていること。	3-1-1	教育研究上の目的に基づいて教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を設定していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）の提示 ・カリキュラムマップの提示
				3-1-2	教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を設定するための体制を構築し、その適切性について定期的に検証していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会組織及び活動 ・点検、評価（PDCA サイクル） ・検証、改善の事例
				3-1-3	教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）を大学の教職員及び学生に周知し、かつ社会に公表していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・周知方法と公表方法 ・効果
		3-2	【教育課程の内容・実施】 教育課程の編成・実施方針（カリキュラムポリシー）に基づいて、歯学教育課程が編成され、実施されていること。	3-2-1	歯学教育モデル・コア・カリキュラムの内容を包含した教育課程を体系的に編成し、実施していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な授業科目の体系的配置 ・準備教育の充実（学士力の担保） ・独自の教育カリキュラムとその効果 ・モデル・コア・カリキュラムとアドバンスド・カリキュラムの組合せとバランス ・研究者養成、グローバル人材育成 ・キャリアパス
				3-2-2	医療人として基本的な人格形成のために、豊かな人間性、知性を養うための教育が行われていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人育成に向けた各大学の特色ある講義・実習 ・医療倫理学、プロフェッショナリズム、医療コミュニケーション
				3-2-3	学士力の担保を念頭に置いた医療人育成を目指した歯学教育カリキュラムを提供していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・実習形態のバランス適切性 ・能動的学習の推進の視点 ・生涯学習の観点 ・幅広い知識修得と体験の視点
				3-2-4	到達目標が明示されたシラバスを作成し、それに基づいた授業を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス ・時間割
				3-2-5	大学・学部の理念・目的及び教育目標達成のため、教育課程、教育方法について、特色ある取組を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義、少人数グループ教育、問題基盤型あるいは症例基盤型学習（臨床推論）、相互学習、体験学習、実験、臨床見学、臨床技能教育（シミュレーション教育）、臨床実習、地域実地経験、WEBを通じた学習等、研究室配属、学会などで研究発表
		3-3	【教育環境】 教育目的に沿った教育を実施するための教育環境が整っていること。	3-3-1	医療人を養成するための教育施設・設備が整備されていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・講義室 ・実習室 ・スキルスラボ ・図書館（図書室） ・談話室、自習室、コンピュータ室

		3-4	【教育成果の検証】 教育成果について定期的に検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけていること。	3-4-1	学習成果について定期的に検証を行い、教育の改善につなげる組織的な仕組みを整備していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会組織及び活動状況 ・授業評価など
				3-4-2	検証した結果に基づき、教育の改善を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクル ・検証、改善の事例
4	患者への配慮と臨床能力の確保	4-1	【臨床実習体制】 多様な患者ニーズに配慮した診療参加型臨床実習を行う体制が整備されていること。	4-1-1	診療参加型臨床実習の管理運営体制が整備されていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習の運営体制 ・指導医の資格、資質等
				4-1-2	診療参加型臨床実習の指導歯科医の条件が明示され、十分な教員数が配置されていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導歯科医数、臨床教授数 ・指導歯科医の要件（臨床経験年数、専門医、認定医の資格、指導歯科医講習会・FDの受講歴）
				4-1-3	患者に臨床実習の意義が説明され、患者の同意が確認されていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の同意書
				4-1-4	臨床実習に必要な施設・設備を整備していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習用歯科ユニット ・臨床実習用技工室 ・シミュレーター室
		4-2	【臨床能力向上のための教育】 卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な態度、知識、技能を習得させること。	4-2-1	臨床実習開始前に学生の態度、知識、技能の評価を行い、診療参加型臨床実習を行う学生の質の担保を図っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習開始前に達成すべき基本的態度・知識・技能の到達目標 ・共用試験の利用法 ・共用試験の成績
				4-2-2	患者の安全に配慮しつつ、臨床能力の向上のための教育カリキュラムを整備していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習用シラバス ・学部規程など ・臨床実習内容（水準1－4） ・臨床実習の形態（固定実習型、ローテイト実習型、ハイブリッド型）
				4-2-3	診療参加型臨床実習に十分な実習時間を定め、実践していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・学生1人あたりの担当患者数 ・自験数、介助数、見学数 ・補完教育（自験、介助、見学、補完実習の割合）

				4-2-4	卒業時の臨床能力が明示され、診療参加型臨床実習の終了時に、習得した能力を評価するシステムを有し、臨床能力を担保していること。	<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習用シラバス 終了時 OSCE 等の臨床実習終了時の評価方法 臨床研修との連続性 ミニマムリクワイヤメント
				4-2-5	診療参加型臨床実習に際して、医療過誤、医療事故防止、感染対策等に関する医療安全教育が行われていること。	<ul style="list-style-type: none"> 学生への講義、セミナーと実施時期 マニュアルの整備 学生の保険加入状況
5	成績評価と卒業認定	5-1	【成績評価】 各科目の成績評価（態度、知識、技能を含む）の基準・方法が設定され、公平かつ適切に行われるとともに、学生に公表されていること。	5-1-1	学習の成果に対する評価、単位認定の基準及び方法を設定し、学生に明示していること。	<ul style="list-style-type: none"> シラバス等 学部要覧
				5-1-2	設定された成績評価の基準・方法により、成績評価を学生に告知していること。	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報に配慮した告知法 臨床基礎実習等の評価を含む GPA の活用
				5-1-3	進級判定基準を設定・公表し、適切な評価・判定を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> 留年者及び退学者等の状況 判定・評価のプロセス 進級判定基準 委員会・教授会記録
		5-2	【学位授与方針（ディプロマポリシー）】 教育の目標に基づいて学位授与方針（ディプロマポリシー）が設定、公表され、修了認定が公平かつ厳格に行われていること。	5-2-1	教育目標に基づいた学位授与方針（ディプロマポリシー）を設定し、公平かつ適正な卒業認定を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標とアウトカムの明示 学位授与方針（ディプロマポリシー）の明示 教育目標と学位授与方針（ディプロマポリシー）の整合性 コンピテンシー
				5-2-2	学位授与方針（ディプロマポリシー）を教職員及び学生に周知し、かつ社会に公表していること。	<ul style="list-style-type: none"> 周知方法 公表方法
				5-2-3	学位授与方針（ディプロマポリシー）の適切性について定期的に検証を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生の進路及び活動状況（国家試験合格状況及び臨床研修マッチング状況、アンマッチ率） 点検、評価（PDCA サイクル） 検証、改善の事例
6	教員組織	6-1	歯学教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な教員組織が整備されていること。	6-1-1	教育研究上の目的に沿った教育研究活動の実施に必要な教員を配置していること。	<ul style="list-style-type: none"> 教員に求める能力・資質の設定（選考基準）、任用規定 教員組織の編成方針
				6-1-2	学生数に対する専任教員の比率が適切であること。	<ul style="list-style-type: none"> 教授、准教授、講師、助教の比率 女性教員、外国人教員

			6-1-3	教員の募集・採用・昇任を適切に行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員人事の透明性と適切性 ・公募制、任期制の導入 			
			6-1-4	歯学研究を遂行し、将来の歯学研究を担う人材育成のため高い研究力を有していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・組織としての競争的研究資金の獲得状況（科学研究費補助金を含む） ・組織としての研究に対する第三者評価結果 			
		6-2	教員の教育能力の向上を図るために組織的な取組が定期的にかつ適切に行われていること。	6-2-1	教員の教育能力の向上を図るための組織・体制を整備していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・FD委員会等（職員研修(SD)も含む)の組織 		
				6-2-2	教員の教育能力の向上を図るために、定期的にFD活動を行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動記録 		
		7	点検・評価	7-1	教育研究活動について自己点検・評価を行い、その結果を公表していること。	7-1-1	自己点検・自己評価に関する組織を整備していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証のための体制整備と実施 ・組織レベル・個人レベルでの質保証のための体制構築
						7-1-2	教育研究活動について点検・評価を行い、その結果を公表していること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検評価の実施と結果の公表 ・教員評価システム ・公開されている自己点検表 ・適切な情報公開法
7-2	教育研究活動に関する第三者評価を受審し、その結果を公表していること。			7-2-1	認証評価機関等の第三者評価を受審し、その結果を公表し、社会に対する説明責任を果たしていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・受審機関と結果の公表法（機関別、法人評価等） ・公表されている評価報告書 ・特記すべき事項 		
7-3	自己点検・評価及び第三者評価の結果に基づき、教育研究活動の改善に反映させていること。			7-3-1	自己点検・評価及び第三者評価の結果に基づき、教育研究活動の改善に反映させていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・点検、評価（PDCAサイクル） ・検証、改善の事例 		